
卷 末 資 料

卷末資料

2009（平成 21）年度

奈良・宮崎両県の「初任者研修対象者の到達度や悩みに関するアンケート」結果

1. 調査の趣旨と方法

2008（平成 20）－2009（平成 21）年度 大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）「専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム」に採択された「実習到達度を明確にした実践的指導と評価法」の一つとして、奈良教育大学教職大学院では、宮崎大学教職大学院及び宮崎県教育委員会、奈良県教育委員会と連携し、新任教員が初任者研修を通して何を学び、また、現在どのような悩みをもっているのか、というアンケートを実施した。

奈良県では、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の初任者を対象に、2010（平成 22）年 1 月 5 日に依頼をし、206 名（小学校 100、中学校 54、高等学校 24、特別支援学校 28）の回答があった。

宮崎県では、2010（平成 22）年 2 月 19 日に依頼をして、153 名（小学校 54、中学校 41、高等学校 22、特別支援学校 27、養護教諭 9）の回答があった。奈良県では、養護教諭の回答が無いため、宮崎県の養護教諭を除く 144 名と奈良県の 206 名をあわせ、有効回答数は 350 とした。

本稿では、質問 1、質問 3、質問 4、質問 5 に対し、奈良県と宮崎県の合算及び県別比較、奈良・宮崎両県を合算した校種別比較、奈良県の校種別比較、宮崎県の校種別比較のグラフを作成し考察した。また、質問 2 及び質問 6 は記述回答を求めたものであり、回答に対する奈良県と宮崎県の合算及び県別回答比率と校種別回答比率のグラフを作成した。その上で、回答の内容を考察している。

なお、本稿のグラフはすべて横棒グラフであるが、奈良県と宮崎県の合算及び県別グラフの場合は、一番上の横棒が合算、二番目の横棒が奈良県、三番目の横棒が宮崎県を示している。校種別の場合は、一番上の横棒が小学校、二番目の横棒が中学校、三番目の横棒が高等学校、四番目の横棒が特別支援学校を示している。

2. アンケート用紙

初任者研修対象者の到達度や悩みに関するアンケート（平成 22. . .）

校種（いずれかに○をつけて下さい）：小学校、中学校、高校、特別支援学校

奈良教育大学教職大学院は、宮崎大学教職大学院及び宮崎県教育委員会・奈良県教育委員会と連携して「実習到達度を明確にした実践的指導と評価法」（文部科学省の平成 21 年度「専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム」）の研究を行っております。

このアンケートは、その一環として、皆さんが初任者研修を通して何を学び、どのような悩みを持っておられるかということを調査し、その結果を教職大学院の学部卒院生のカリキュラムづくりに生かそうという目的で実施するものです。お忙しいところ申し訳ありませんが、ご協力のほど宜しくお願い致します。

質問 1：あなたが、教師として一人前になるために、重視していることは何ですか。当てはまるもの 3 つ に○をつけて下さい。

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> ①授業をする力 | <input type="checkbox"/> ②生徒指導をする力 |
| <input type="checkbox"/> ③学級をまとめる力 | <input type="checkbox"/> ④子どもとの人間関係 |
| <input type="checkbox"/> ⑤子どものトラブルの調整力 | <input type="checkbox"/> ⑥保護者との関係 |
| <input type="checkbox"/> ⑦学級事務や校務分掌の処理 | <input type="checkbox"/> ⑧挨拶、言葉遣い、服装、礼儀 |
| <input type="checkbox"/> ⑨同僚・先輩との人間関係 | <input type="checkbox"/> ⑩意欲や使命感 |
| <input type="checkbox"/> ⑪その他 | |

質問 2：質問 1 の中で本当に力がついたと実感した時の具体的な状況について、それぞれの番号を明記の上、ご説明下さい。なお、回答のスペースが限られていますので、数項目のみで結構です。

質問 3：あなたが教師としてこれからもつけたい力は何ですか。当てはまるもの 3 つ以内 に○をつけて下さい。

- | | |
|--|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ①授業をする力 | <input type="checkbox"/> ②生徒指導をする力 |
| <input type="checkbox"/> ③学級をまとめる力 | <input type="checkbox"/> ④子どもとの人間関係 |
| <input type="checkbox"/> ⑤子どものトラブルの調整力 | <input type="checkbox"/> ⑥保護者との関係 |

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> ⑦学級事務や校務分掌の処理 | <input type="checkbox"/> ⑧挨拶、言葉遣い、服装、礼儀 |
| <input type="checkbox"/> ⑨同僚・先輩との人間関係 | <input type="checkbox"/> ⑩意欲や使命感 |
| <input type="checkbox"/> ⑪その他 | |

[

]

質問4：あなたが教師になってから悩んだこと、または現在悩んでいることは何ですか。

当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> ①授業がうまくいかない | <input type="checkbox"/> ②生徒指導がうまくいかない |
| <input type="checkbox"/> ③学級にまとまりがない | <input type="checkbox"/> ④子どもとの人間関係がよくない |
| <input type="checkbox"/> ⑤子どものいじめやトラブル | <input type="checkbox"/> ⑥保護者の苦情 |
| <input type="checkbox"/> ⑦子どもの褒め方・叱り方 | <input type="checkbox"/> ⑧教材研究の仕方がわからない |
| <input type="checkbox"/> ⑨同僚・先輩との人間関係 | <input type="checkbox"/> ⑩教職に意欲や使命感がもてない |
| <input type="checkbox"/> ⑪悩みを相談する相手がいない | <input type="checkbox"/> ⑫クラブ活動・部活動の指導が負担 |
| <input type="checkbox"/> ⑬評価の仕方がわからない | <input type="checkbox"/> ⑭ある子どもの指導に行き詰まった |
| <input type="checkbox"/> ⑮学級事務や校務分掌の処理 | <input type="checkbox"/> ⑯個人面接や家庭訪問 |
| <input type="checkbox"/> ⑰その他 | |

[

]

質問5：あなたは、自分の悩みをどのように解決（解消）していますか。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> ①管理職に相談する | <input type="checkbox"/> ②学年の先生に相談する |
| <input type="checkbox"/> ③先輩の先生に相談する | <input type="checkbox"/> ④教育相談に行く |
| <input type="checkbox"/> ⑤同僚に相談する | <input type="checkbox"/> ⑥家族に相談する |
| <input type="checkbox"/> ⑦若手教師同士で話し合う | <input type="checkbox"/> ⑧他校の先生に相談する |
| <input type="checkbox"/> ⑨本や資料で勉強する | <input type="checkbox"/> ⑩自分だけで徹底的に考える |
| <input type="checkbox"/> ⑪信頼している人に相談する | <input type="checkbox"/> ⑫時間が解決するまでじっと耐える |
| <input type="checkbox"/> ⑬その他 | |

[

]

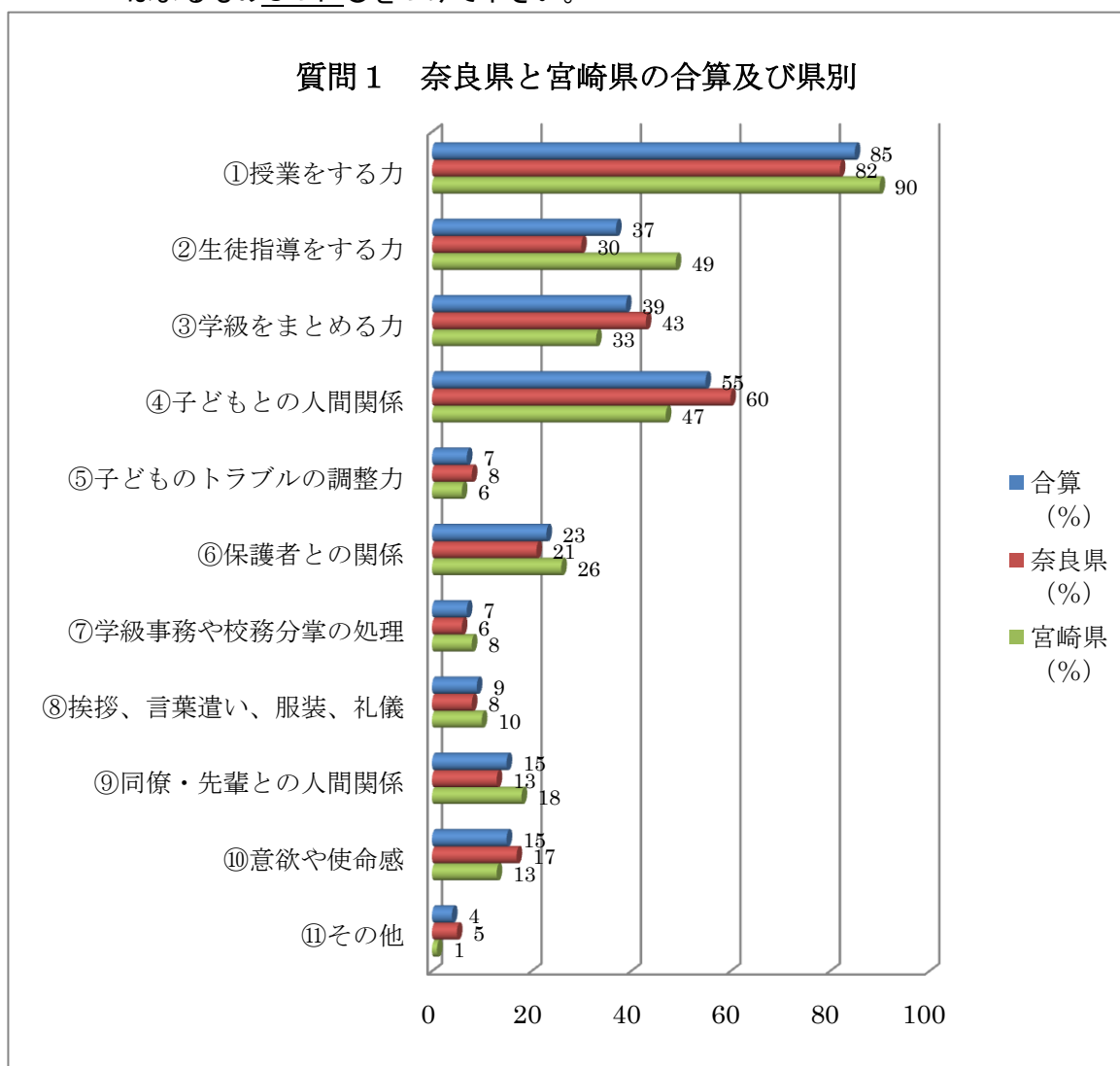
質問6：あなたが今悩んでいる事柄について、支障のない範囲で具体的に書いて下さい。

なお、人名や学校名、その他の固有名詞等は仮名で結構です。

ご協力有り難うございました。

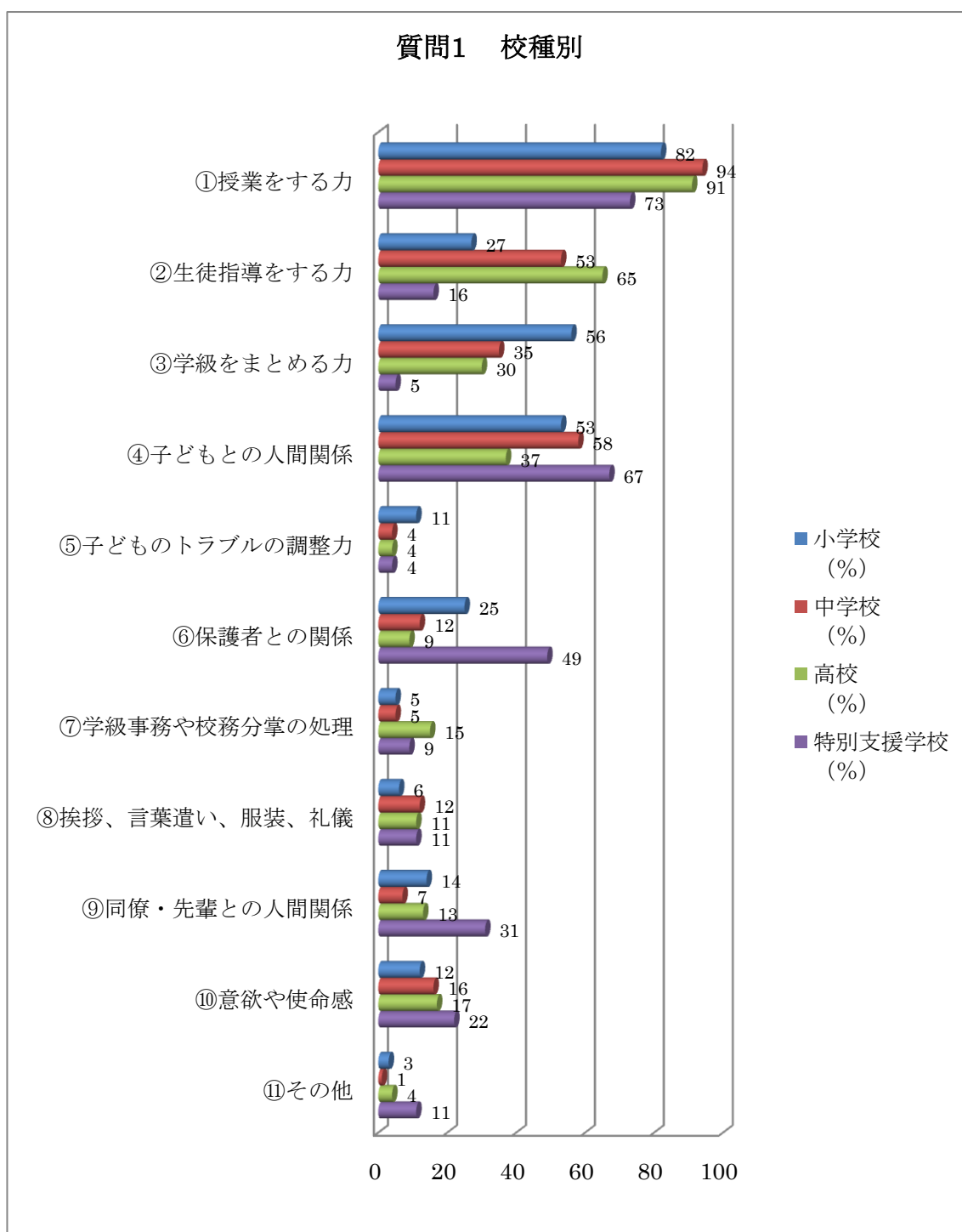
3. アンケート結果

質問 1：あなたが、教師として一人前になるために、重視していることは何ですか。当てはまるもの3つに○をつけて下さい。



〈考 察〉

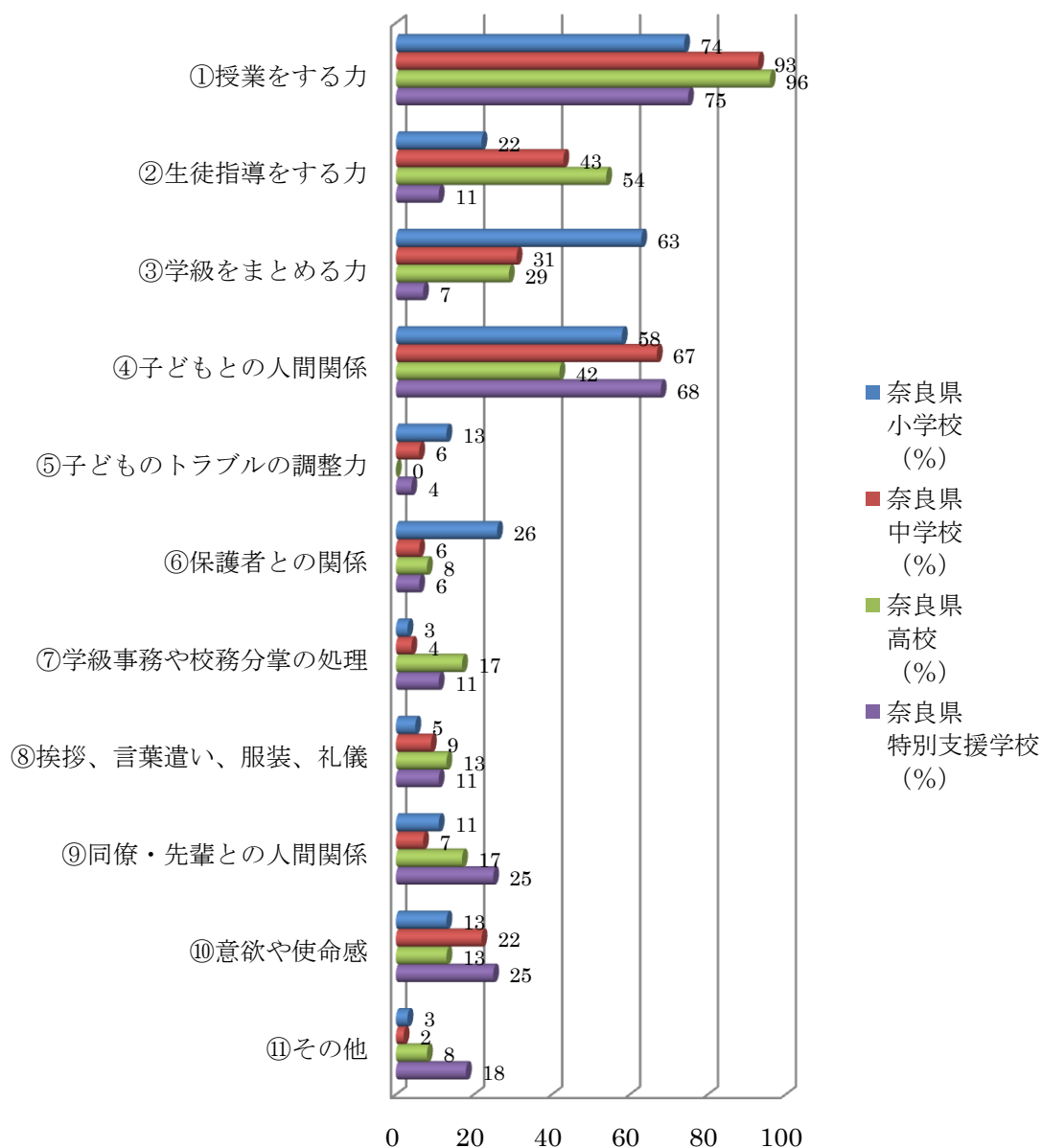
教師として一人前になるために重視していることの1位は「①授業をする力」(奈良82%、宮崎90%)であった。これは両県ともに1位である。しかし、奈良県の2位は「④子どもとの人間関係」(奈良60%)であるのに対し、宮崎県の2位は「②生徒指導をする力」(宮崎49%)であった。3位は奈良県では「③学級をまとめる力」(奈良43%)であり、宮崎県の3位は「④子どもとの人間関係」(宮崎47%)であった。宮崎県の2位「②生徒指導をする力」は奈良県では4位(30%)であった。奈良県3位の「③学級をまとめる力」は宮崎県では4位(33%)であった。逆に下位は両県とも「⑤子どものトラブルの調整力」(奈良8%、宮崎6%)「⑦学級事務や校務分掌の処理」(奈良6%、宮崎8%)「⑧挨拶、言葉遣い、服装、礼儀」であった(奈良8%、宮崎10%)。



〈考 察〉

すべての校種が「①授業をする力」（小82%、中94%、高91%、特73%）を最も重視している。その他、小学校では「③学級をまとめる力」が56%と他校種より多く、中学校及び高校では「②生徒指導をする力」（中53%、高65%）が多かった。特別支援学校では、「④子どもとの人間関係」（特67%）、「⑥保護者との関係」（特49%）、「⑨同僚・先輩との人間関係」（特31%）が他校種に比べて多いのが特徴的である。

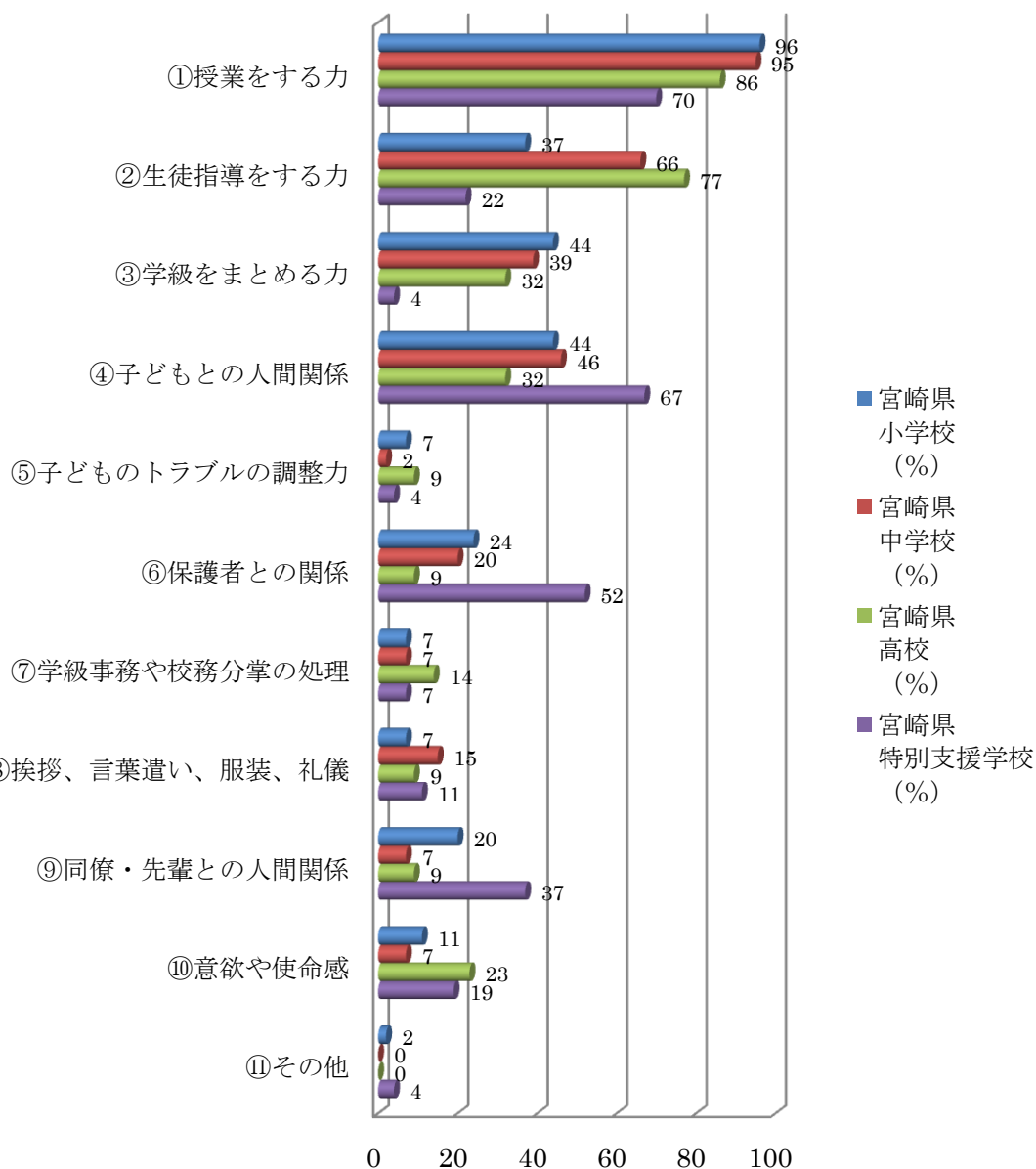
質問 1 奈良県の校種別



〈考 察〉

奈良県の校種別を見ると、全校種が「①授業をする力」（小 74%、中 93%、高 96%、特 75%）を最も重視している。また、小学校で 2 位の「③学級をまとめる力」（小 63%）は他校種に比べて多く、中学校と特別支援学校では「④子どもとの人間関係」（中 67%、特 68%）が 2 位であった。高校の 2 位は「②生徒指導をする力」（高 54%）であり、中学校では 43% で 3 位であった。小学校が「⑥保護者との関係」（小 26%）を重視していることが他校種に比べて特徴的である。

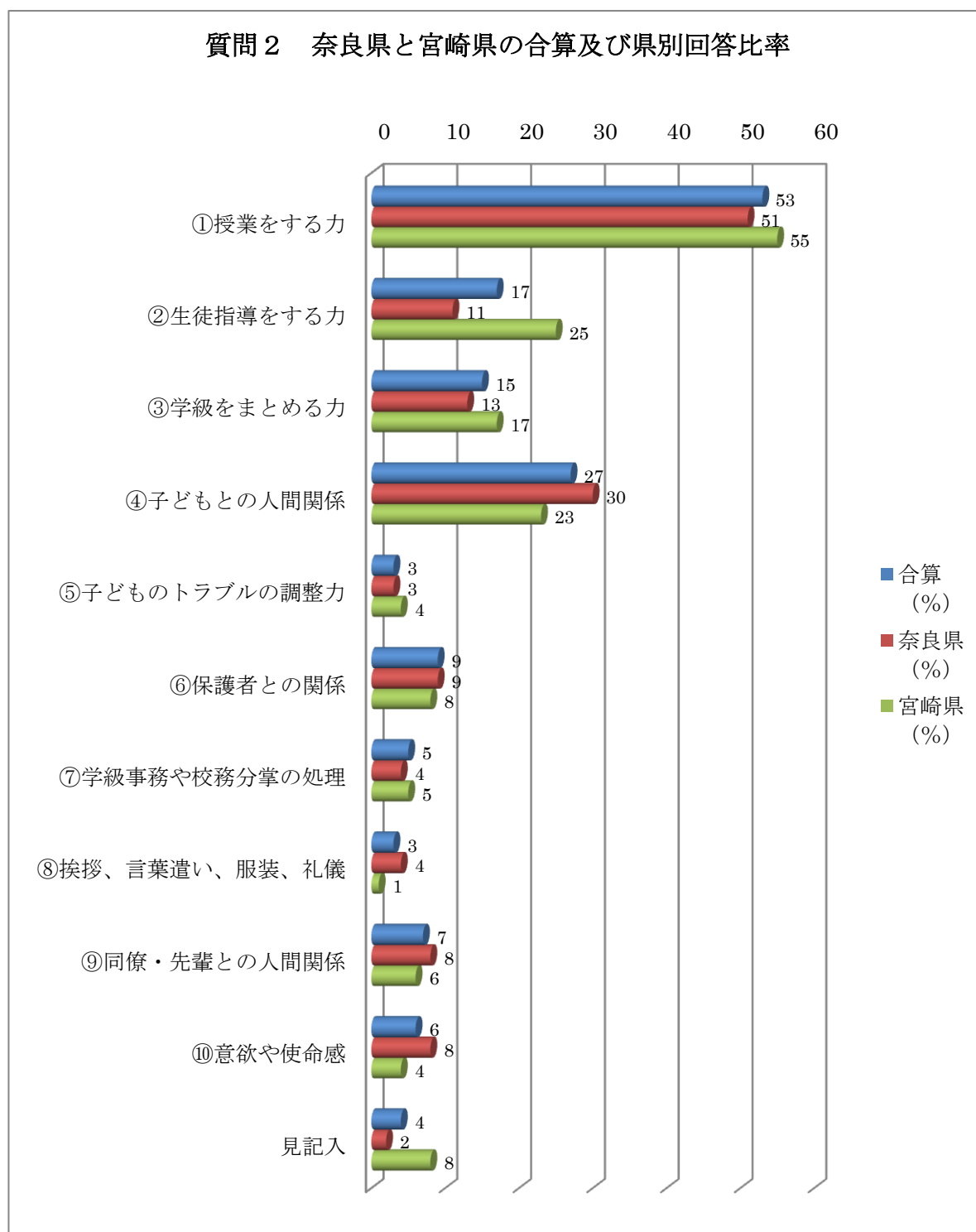
質問 1 宮崎県の校種別



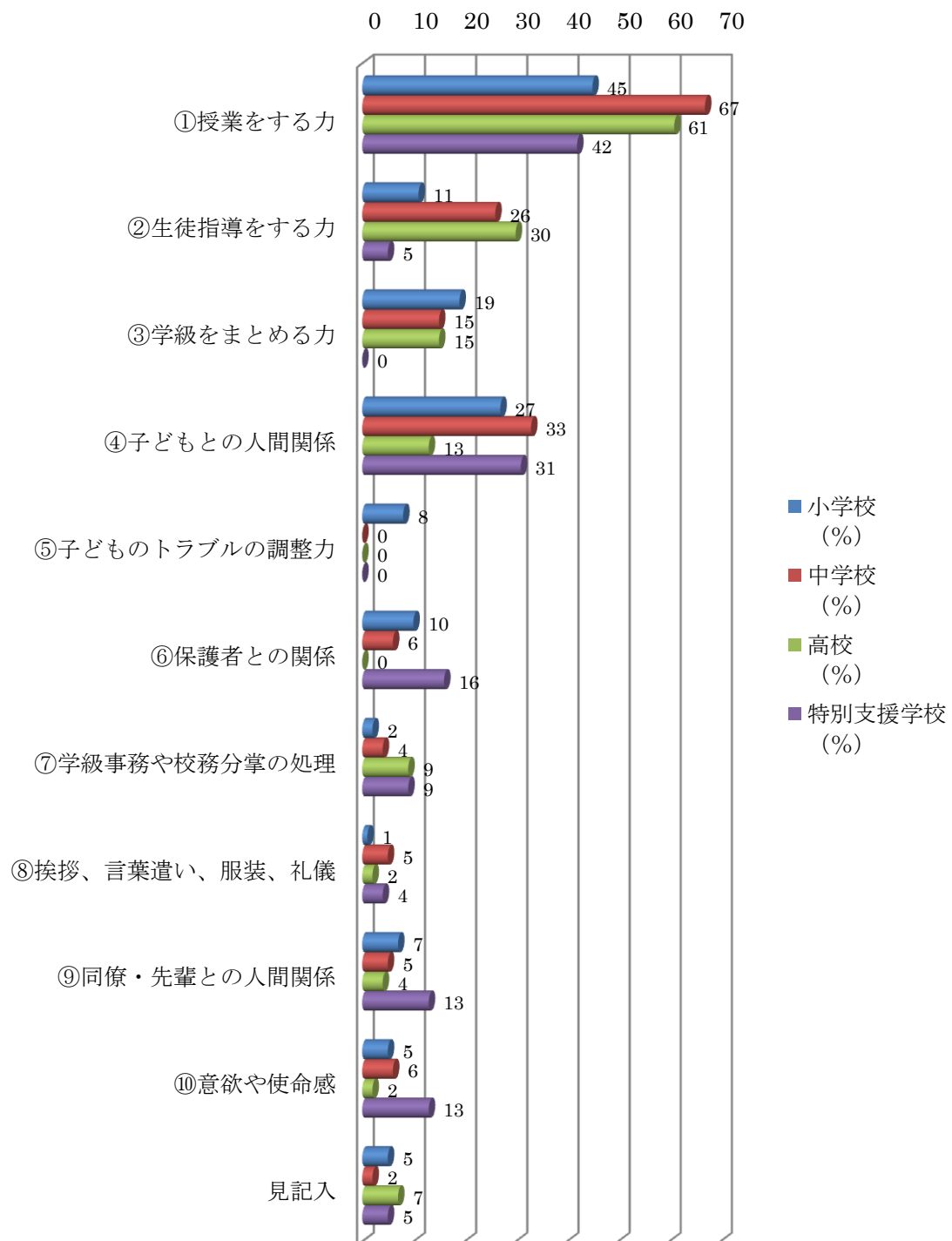
〈考 察〉

宮崎県の校種別でも、重視するものの1位は「①授業をする力」(小 96%、中 95%、高 86%、特 70%)であり、奈良県と同様の結果であった。しかし、宮崎県の場合は、小学校が 96%と特に多い。2位は中学校と高校が「②生徒指導をする力」(中 66%、高 77%)であり、小学校では「③学級をまとめる力」(小 44%)と「④子どもとの人間関係」(小 44%)が同率であった。特別支援学校の2位は「④子どもとの人間関係」(特 67%)、3位は「⑥保護者との関係」(特 52%)であり、4位の「⑨同僚・先輩との人間関係」(特 37%)までが他校種と比べて突出している。

質問２：質問１の中で本当に力がついたと実感した時の具体的な状況について、それぞれの番号を明記の上、ご説明下さい。なお、回答のスペースが限られていますので、数項目のみで結構です。



質問2 校種別 回答比率



〈考 察〉

奈良・宮崎両県ともに「①授業をする力」（奈良 51%、宮崎 55%）がついたと実感した時の状況を回答した初任者が多かった。校種別では、小学校で 45%、中学校で 67%、高校で 61%、特別支援学校で 42%の初任者が回答しており、なかでも中学校の回答率が最も高かった。

それぞれ重複する記述もあるが、「①授業をする力」がついたと感じる理由としては「子どもたちの反応を見て実感する」という回答が多く、次に「教材研究や指導案を先輩教員に見てもらいアドバイスをもらったこと」、またこれに関連して「研修、公開授業で多くの授業を見せてもらい、さらに自分が研究授業を行ったことで授業する力につながった」とする回答が多かった。以下に、その記述の一例を挙げる。

○子どもたちからの反応から

- ・子どもから、先生の授業が分かりやすいと言ってくれたとき。分からないと言っていた子どもが分かるようになったと言ってくれたとき。（奈良・小）
- ・授業を展開するうえでの授業計画をたてる技術が向上したと感じています。教師が机上で計画を作るのではなく、子どもの反応を見ながらメリハリのある授業展開をしていくことが必要だと思います。（奈良・中）
- ・生徒が職員室に質問に来たとき。（奈良・高）
- ・生徒が自分の授業に興味を持ち、少しでも頑張っている様子が見られたとき。（奈良・特）
- ・授業については、子どもたちの納得した様子や驚きの声が上がったとき。（宮崎・小）
- ・子どもが「もっとこの時間（授業）を続けたい。終わりにしたくない」と言ったとき。（宮崎・中）
- ・生徒の分かったと実感したときの表情を見ると、授業をした甲斐があると思う。なかなか少ないが、楽しそうに授業を聞いている姿を見るとそう感じる。（宮崎・高）
- ・子どもたちに教えた内容が定着していると感じたとき。（宮崎・特）

○教材研究や指導案、先輩教員のアドバイス、研修、公開授業に関するものから

- ・教材研究や板書計画を念入りに考えることで、子どもに伝えたい力、つけたい力をしっかり伝えることができる。（奈良・小）
- ・教科別の研修で知った教材を公開授業に役立てることができた。（奈良・中）
- ・先輩教員や研究会などから、いろいろなパターンの教材や教具、支援の方法を学ぶ中で、個に少しでもせまった形で支援することができた。（奈良・特）
- ・研修で学び、実践し、先輩の先生方に評価していただき、学びを子どもに返せた。（宮崎・小）
- ・研究授業でたくさんの先生方にアドバイスをもらうことで授業に自信がついた。（宮崎・中）
- ・研究授業等を通じて、多くのアドバイスをいただき、次の授業に生かすことによって、授業が改善できたと思う。（宮崎・特）

次に、本当に力がついたと実感した時の具体的な状況について二番目に多かった回答は

「④子どもとの人間関係」(奈良 30%、宮崎 23%)である。これを校種別でみると、小学校が 27%、中学校 33%、高校 13%、特別支援学校 31%という回答率であった。

回答の内容としては、「子どもたちのほうから積極的に話をしてくれるようになることで、子どもとの人間関係をはぐくむ力がついたと実感できる」、また「休み時間や、部活動の時にも積極的に子どもと関わり、コミュニケーションをとるようにすることによって、子どもとの人間関係をより良い方向に築いている」とする記述が多かった。以下、記述の一例を記す。

- ・いろいろな話を伝えに来てくれたとき実感する。(奈良・小)
- ・生徒から話しかけられる事が多くなる。生徒が周りに集まってくる。(奈良・中)
- ・子どもとの人間関係は、子どもたちの方から声をかけてくれることが多くなったとき。また、相談にきてくれたとき。(宮崎・小)
- ・休み時間や給食の時間、遊んだり話をするを大切にしている。(奈良・小)
- ・毎日遊ぶことを通して、毎月の生活アンケートで「学級がたのしい」と子どもが書いていたとき。(宮崎・小)
- ・部活動で、多くの時間を共に過ごす中で、信頼関係が築かれてきていると感じたとき。(宮崎・中)

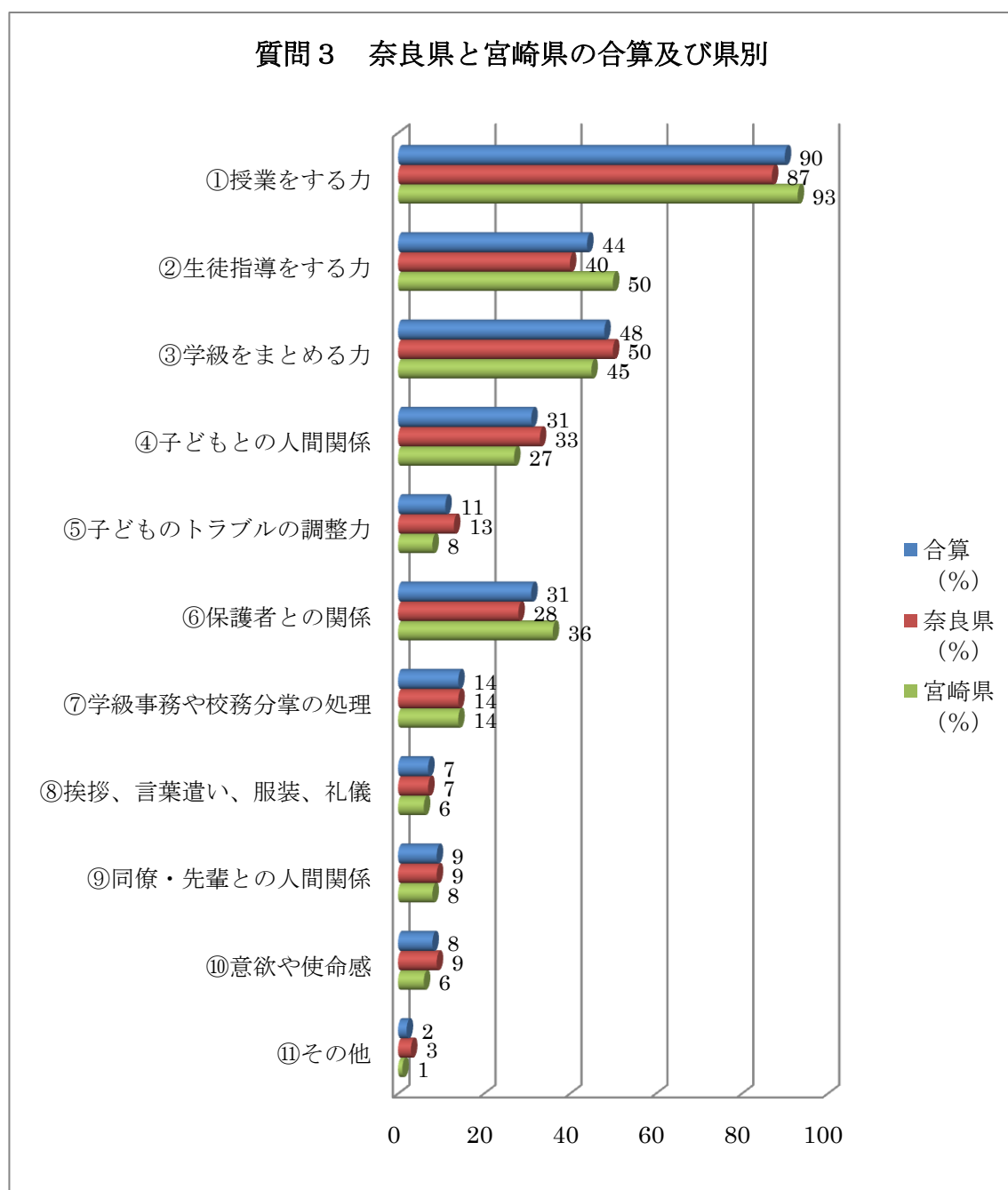
その他、特別支援学校では「言葉のない子どもが一生懸命意思表示をしてくれ、気持ちを通じ合ったとき。(宮崎・特)」 「子どもの要求と、自分が「〇〇さんはこうしたいのかな。」と思ったことが一致したとき。(奈良・特)」等のように、気持ちが通じあうことで子どもとの人間関係が深まったと実感できるようである。

最後に、奈良・宮崎両県の合算のうち三番目に回答が多かった項目は「②生徒指導をする力」(奈良 11%、宮崎 25%)であった。これは、奈良県よりも宮崎県のほうが回答率が高い。校種別でみると、小学校が 11%、特別支援学校が 5%と回答率が低いのにに対し、中学校では 26%、高校では 30%、と中学校と高校での回答率が高いことが特徴的である。

記述の一例を挙げると、「問題が起きそうな雰囲気を読み取る。生徒指導中、生徒が涙を流す。(宮崎・中)」、「待つ姿勢(我慢強さ)が身についた。言い続けることで生徒が清掃をするようになった。(宮崎・高)」等の子どもの変化を読み取る力や、また、一方的、強制的ではない“待つ姿勢”が生徒指導をするうえで必要であることが記述されている。さらに、「生徒指導をするには、まず生徒理解ということで、1人の生徒の話をしっかり聞き、その子を理解した上で指導しなければいけないところを見つけ、他の先生方の助言をいただきながら、向き合えたとき。(奈良・中)」、「他の先生方との会話を増やすことで、生徒の様々な面から指導を行うことができたこと。(宮崎・小)」等、他の先生の協力や助言をもらうことで生徒指導をする力がついたとする記述も多い。そして、最終的には「指導後、児童が納得して反省しているとき(奈良・小)」 「繰り返し注意していた行動を、生徒自らが気付きやめたとき。(奈良・高)」等のように、子どもが自分で気が付き、自らの意思で改めようとするように、導いていくことが大切であることがうかがえた。

以上3つは回答率が高かったものであるが、逆に回答率が低いものは、奈良県と宮崎県の合算をみると、「⑧挨拶、言葉遣い、服装、礼儀」、「⑤子どものトラブル調整力」、「⑦学級事務や校務分掌の処理」であった。

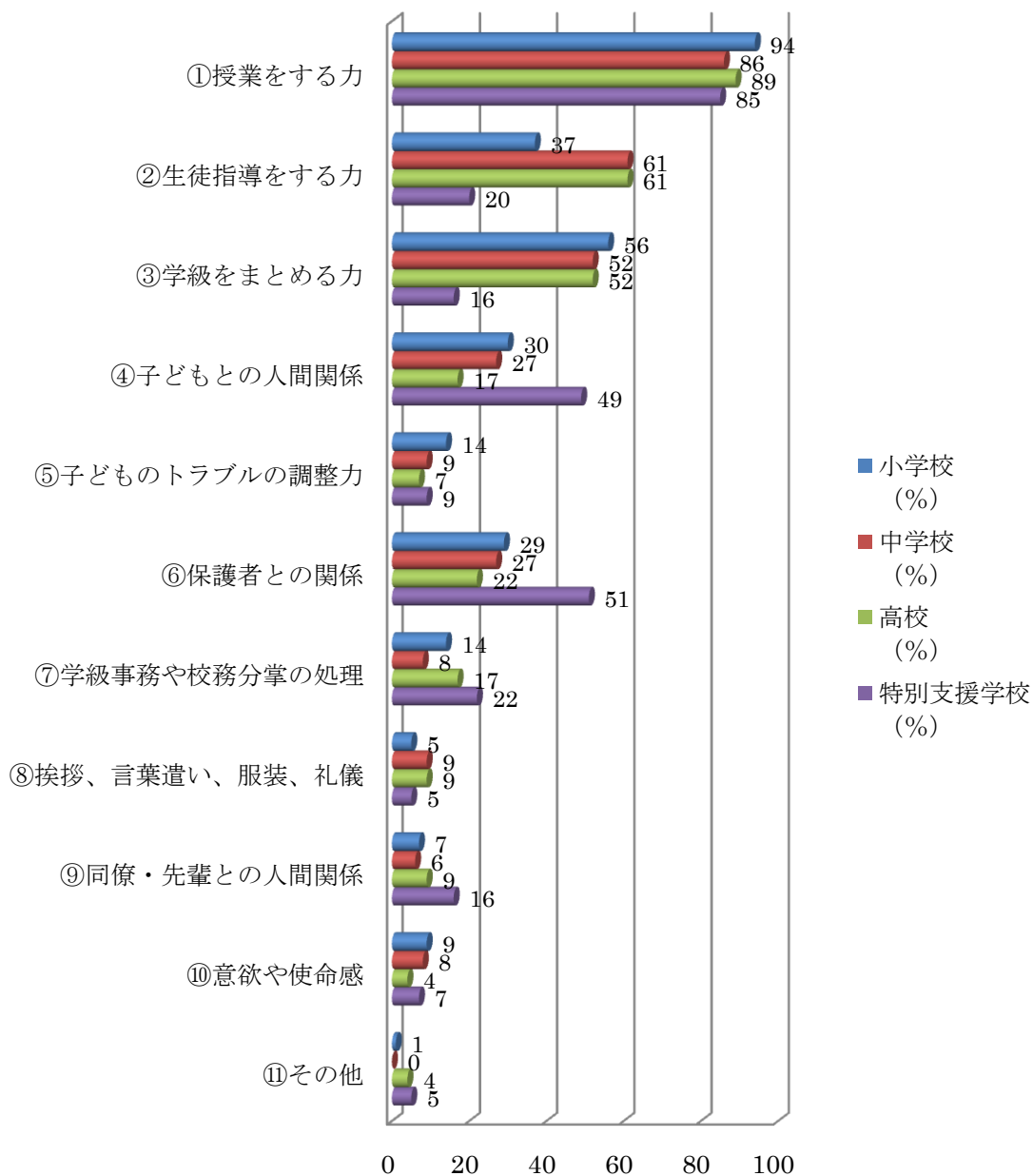
質問3：あなたが、教師としてこれからもつけたい力は何ですか。当てはまるもの3つ以内に○をつけて下さい。



〈考 察〉

奈良・宮崎両県ともに、これからもつけたい力の1位は「①授業をする力」（奈良 87%、宮崎 93%）であった。2位は合算では「③学級をまとめる力」であり、奈良県でも2位（50%）あるが、宮崎県では3位（45%）だった。また、合算の3位は「②生徒指導をする力」であるが、奈良県では3位（40%）、宮崎県は2位（50%）であった。僅差であるが奈良県と宮崎県の2位と3位の順位が入れかわっている。

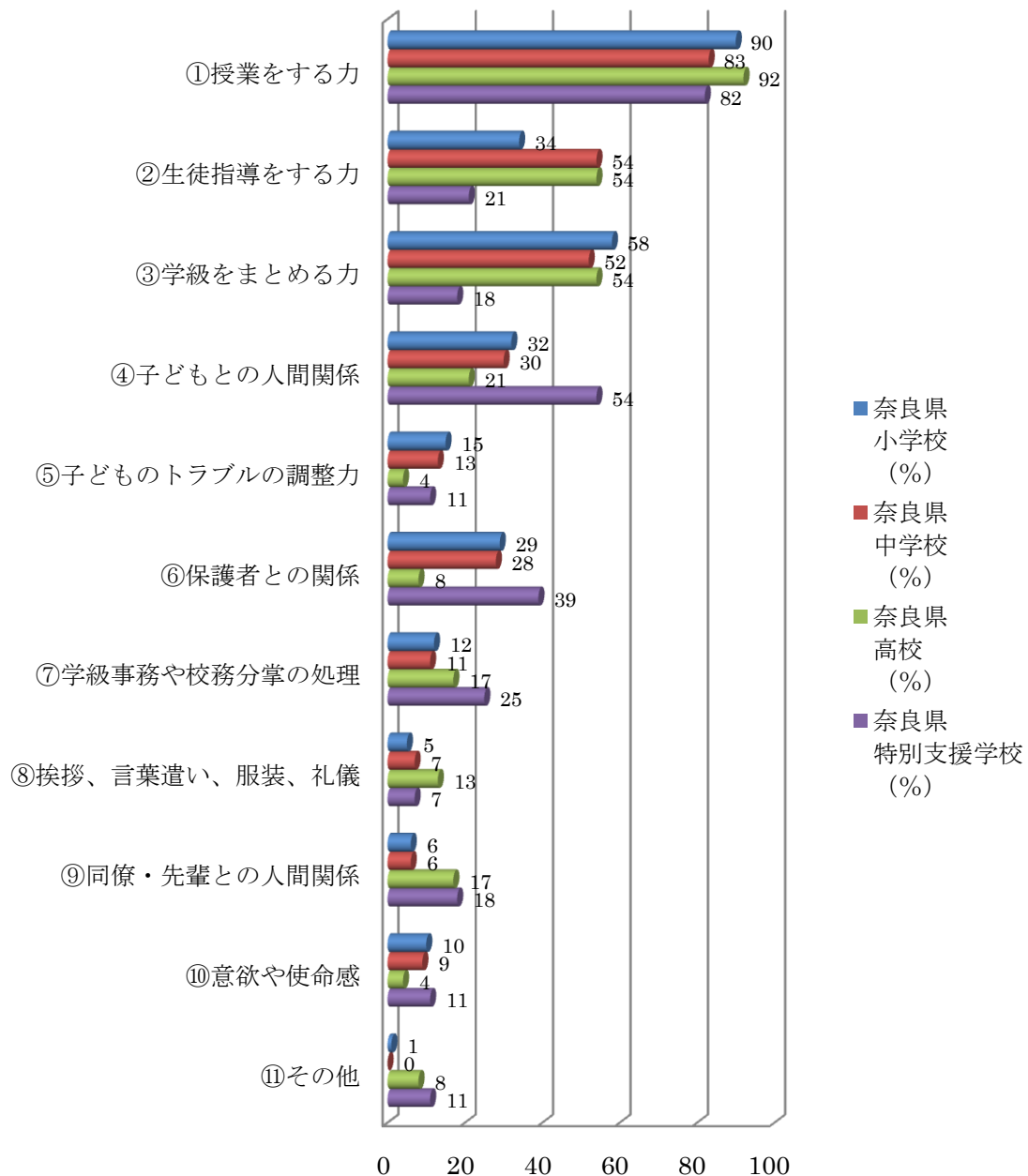
質問 3 校種別



〈考 察〉

校種別を見ると、全校種が「①授業をする力」（小 94%、中 86%、高 89%、特 85%）を最もつけたいと回答している。2位は小学校で「③学級をまとめる力」（小 56%）、中学校及び高校では「②生徒指導をする力」（中 61%、高 61%）、特別支援学校では「⑥保護者との関係」（特 51%）であった。また、特別支援学校の場合、他校種に比べて「④子どもとの人間関係」（特 49%）が多いのが特徴的であった。

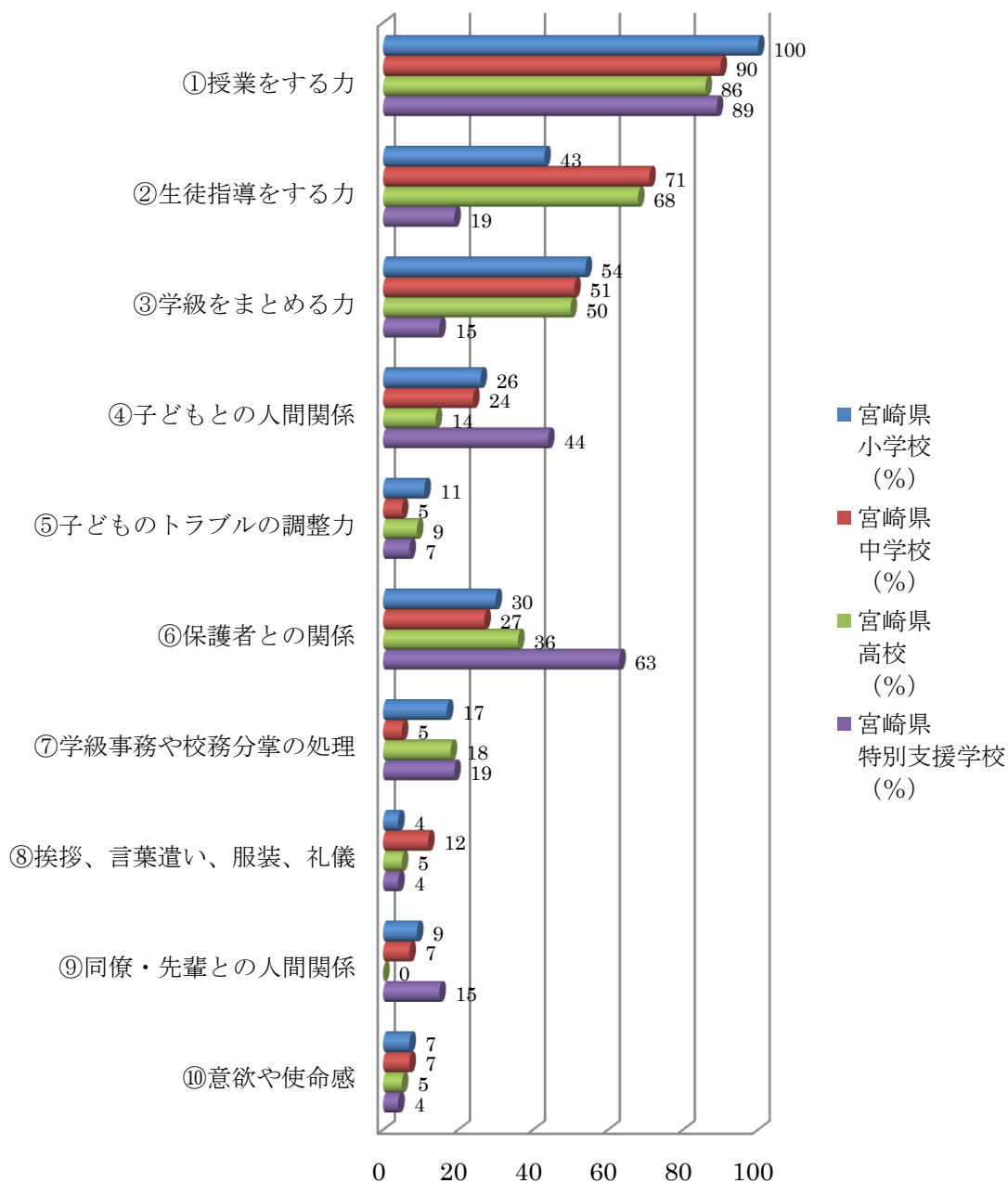
質問3 奈良県の校種別



〈考 察〉

奈良県の校種別では、これからもつけたい力の1位は「①授業をする力」（小90%、中83%、高92%、特82%）であった。その中でも、高校の回答率が最も高い。2位は小学校では「③学級をまとめる力」（小58%）、中学校及び高校は「②生徒指導をする力」（中54%、高54%）、特別支援学校は「④子どもとの人間関係」（特54%）であり、これは他校種に比べて突出している。

質問3 宮崎県の校種別

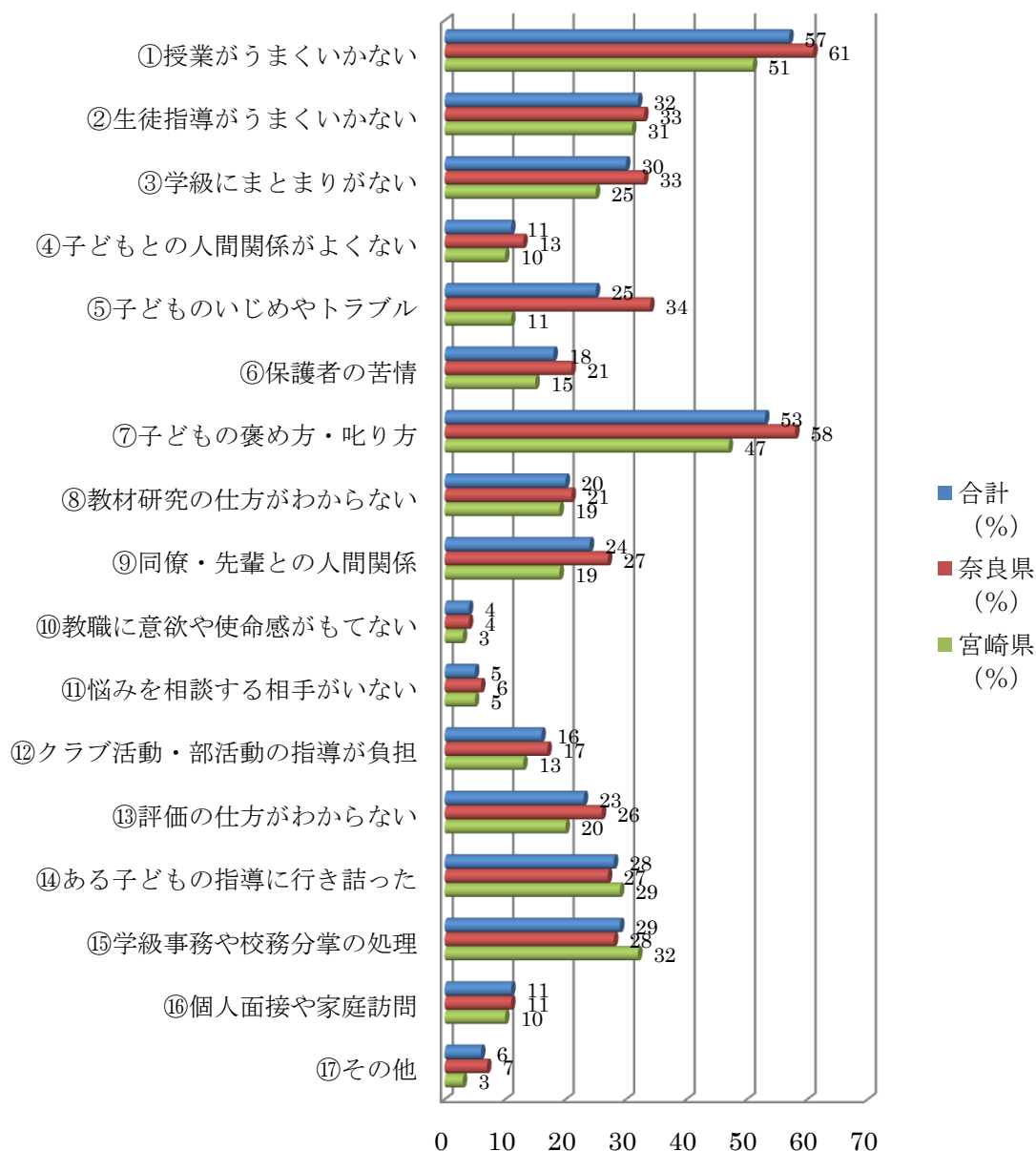


〈考 察〉

宮崎県の校種別では、これからもつけたい力の1位は「①授業をする力」（小100%、中90%、高86%、特89%）であった。宮崎県の場合、小学校が100%の回答率である。2位は小学校では「③学級をまとめる力」（小54%）、中学校及び高校は「②生徒指導をする力」（中71%、高68%）、特別支援学校は「⑥保護者との関係」（特63%）であった。

質問４：あなたが教師になってから悩んだこと、または現在悩んでいることは何ですか。
 当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

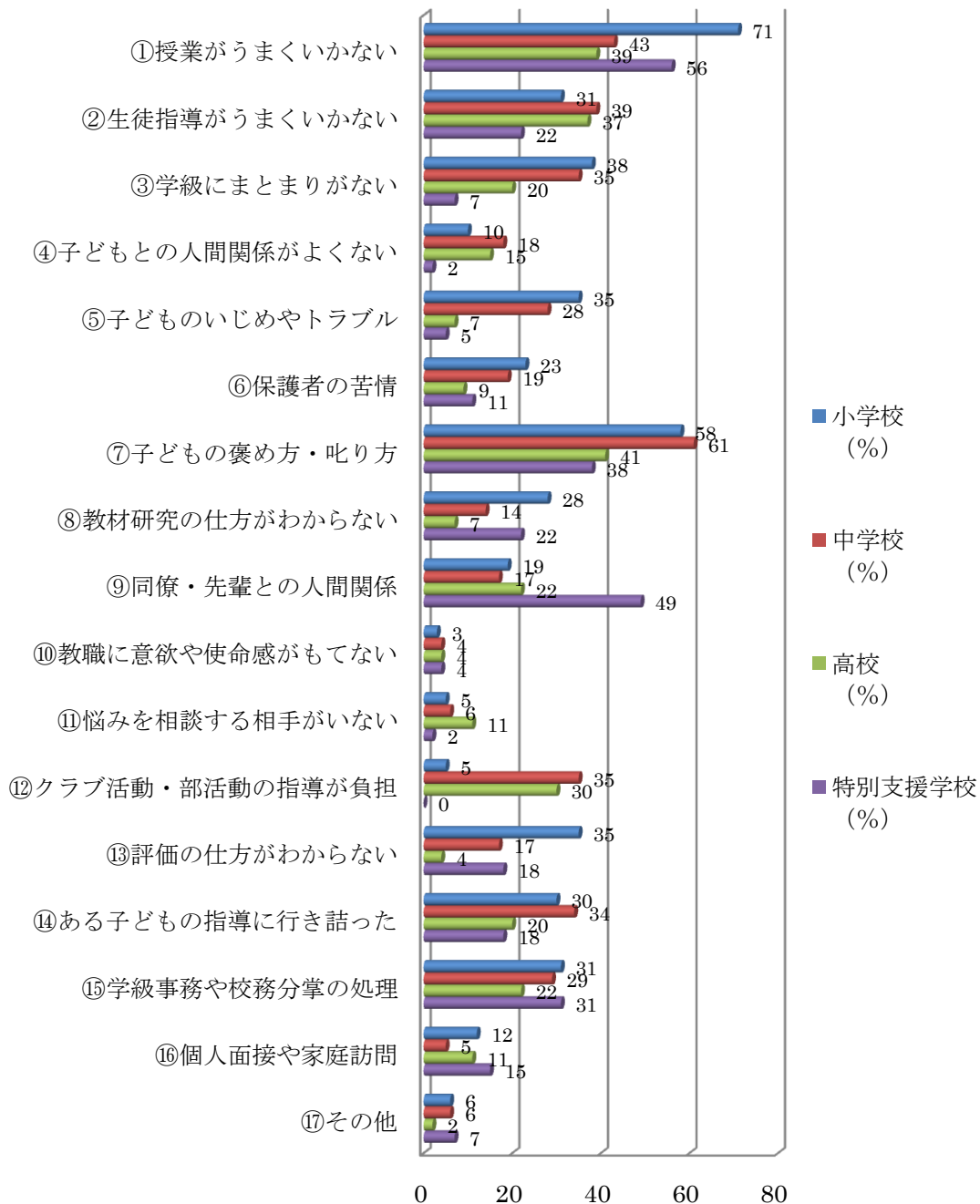
質問４ 奈良県と宮崎県の合算及び県別



〈考 察〉

奈良・宮崎両県ともに悩んでいることの１位は「①授業がうまくいかない」（奈良 61%、宮崎 51%）であった。これは、奈良県のほうが 10%多い。２位は「⑦子どもの褒め方・叱り方」（奈良 58%、宮崎 47%）、３位は奈良県が「⑤子どものいじめやトラブル」（奈良 34%）、宮崎県が「⑮学級事務や校務分掌の処理」（宮崎 32%）であった。

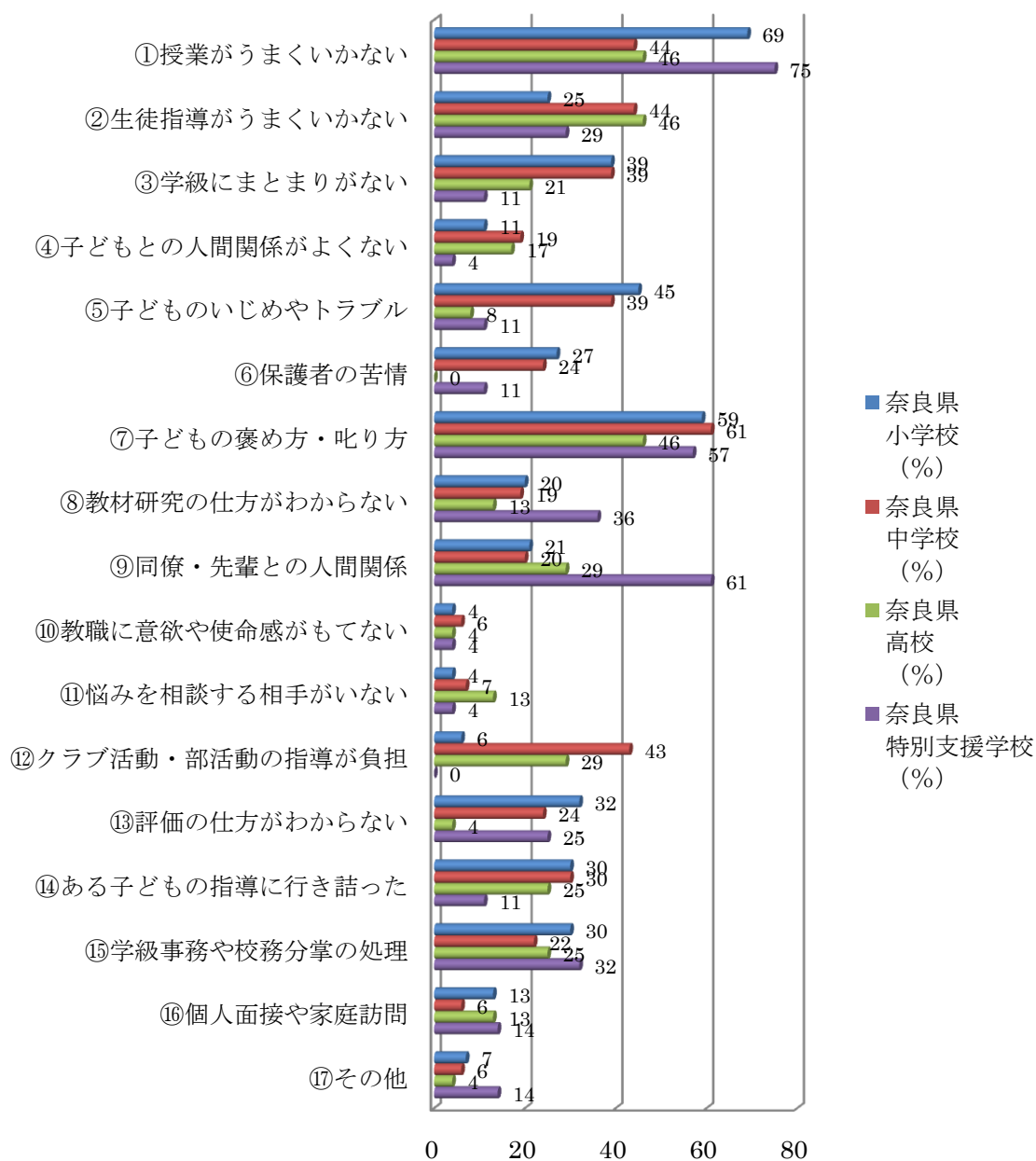
質問4 校種別



〈考 察〉

校種により1位と2位に違いがでた。小学校と特別支援学校では1位が「①授業がうまくいかない」(小 71%、特 56%)であり、中学校及び高校では「⑦子どもの褒め方・叱り方」(中 61%、高 41%)である。これは小学校でも58%と多く、2位であった。特別支援学校の2位は「⑨同僚・先輩との人間関係」(特 49%)という回答であった。

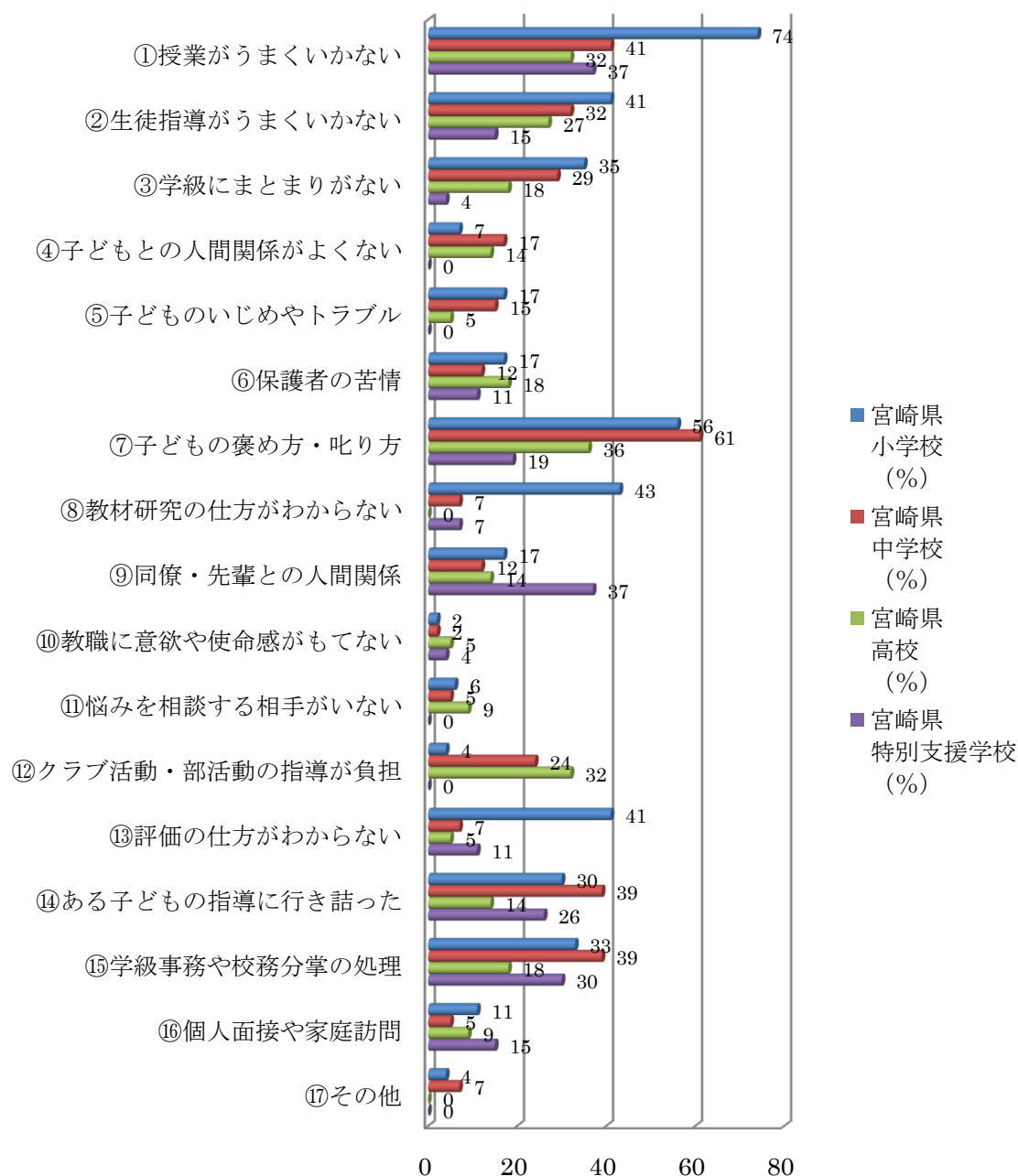
質問 4 奈良県の校種別



〈考 察〉

奈良県では小学校と特別支援学校が「①授業がうまくいかない」（小 69%、特 75%）と悩んでいた。中学校では「⑦子どもの褒め方・叱り方」（中 61%）、高校は「①授業がうまくいかない」「②生徒指導がうまくいかない」「⑦子どもの褒め方・叱り方」（高 46%）が同率1位であった。中学校では「⑫クラブ活動・部活動の指導が負担」（中 43%）が多く、特別支援学校では「⑨同僚・先輩との人間関係」（特 61%）に悩む初任者が多かった。

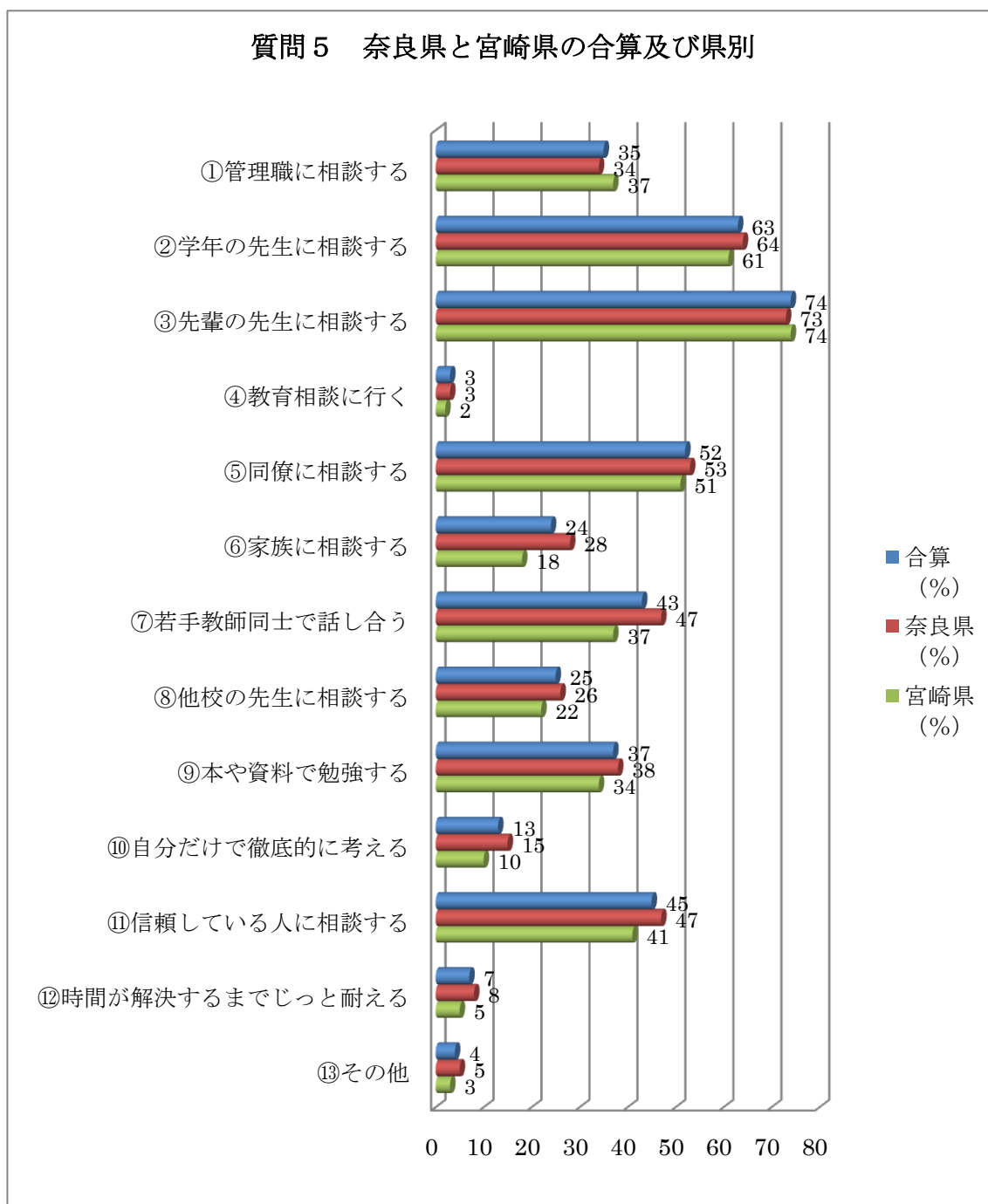
質問 4 宮崎県の校種別



〈考 察〉

宮崎県は小学校で「①授業がうまくいかない」(小 74%) ことに悩む初任者が最も多い。中学校、高校では「⑦子どもの褒め方・叱り方」(中 61%、高 36%) である。これは小学校でも 56% と多い。特別支援学校は「⑨同僚・先輩との人間関係」(特 37%) が最も多かった。また、小学校では「⑧教材研究の仕方がわからない」(小 43%) 「⑬評価の仕方がわからない」(小 41%) が他校種に比べて多いことが特徴的である。

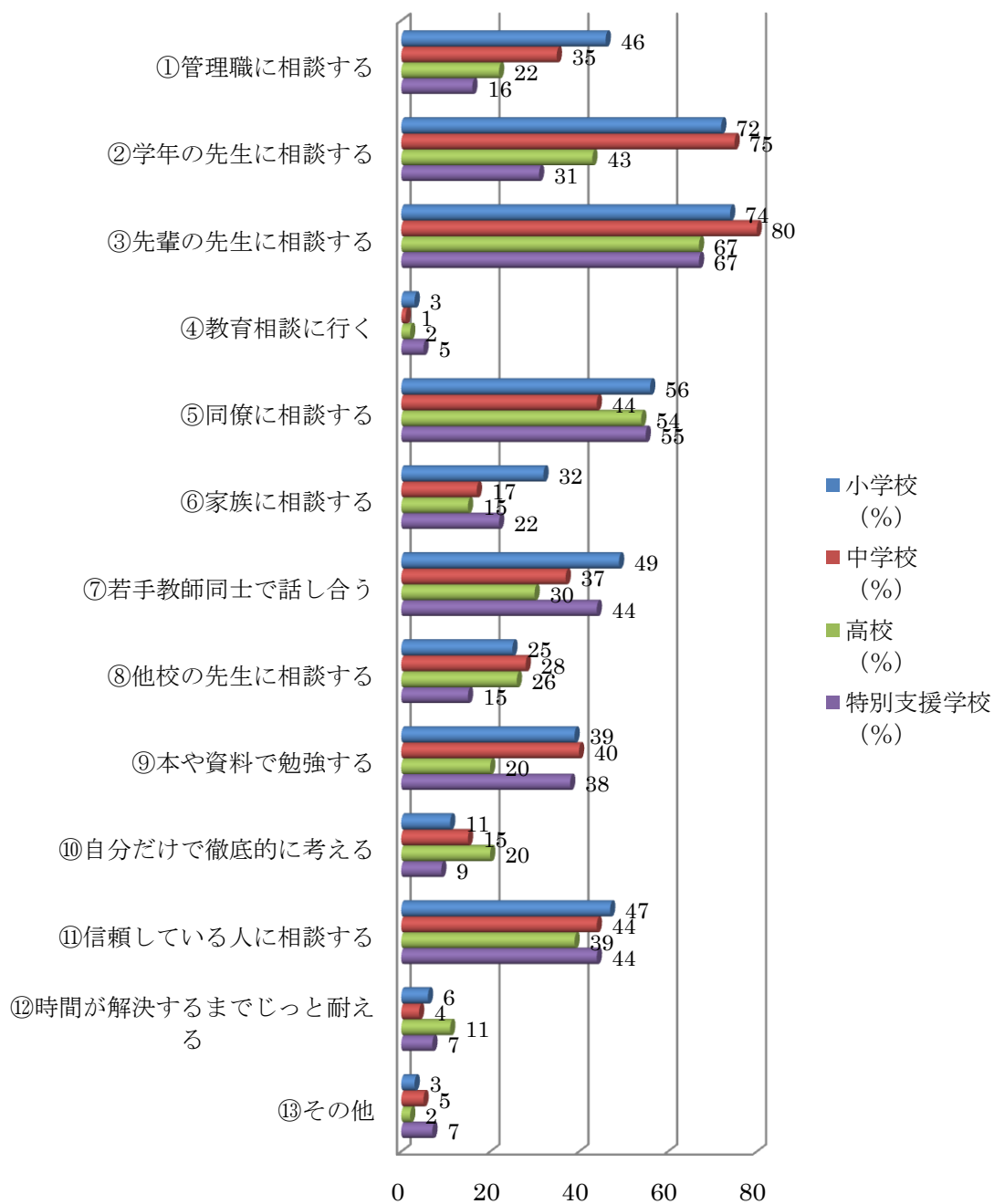
質問5：あなたは、自分の悩みをどのように解決（解消）していますか。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。



〈考 察〉

奈良県、宮崎県ともに、同じような結果がでた。悩みを相談する相手として1位は「③先輩の先生に相談する」（奈良73%、宮崎74%）、2位が「②学年の先生に相談する」（奈良64%、宮崎61%）、3位が「⑤同僚に相談する」（奈良53%、宮崎51%）であった。

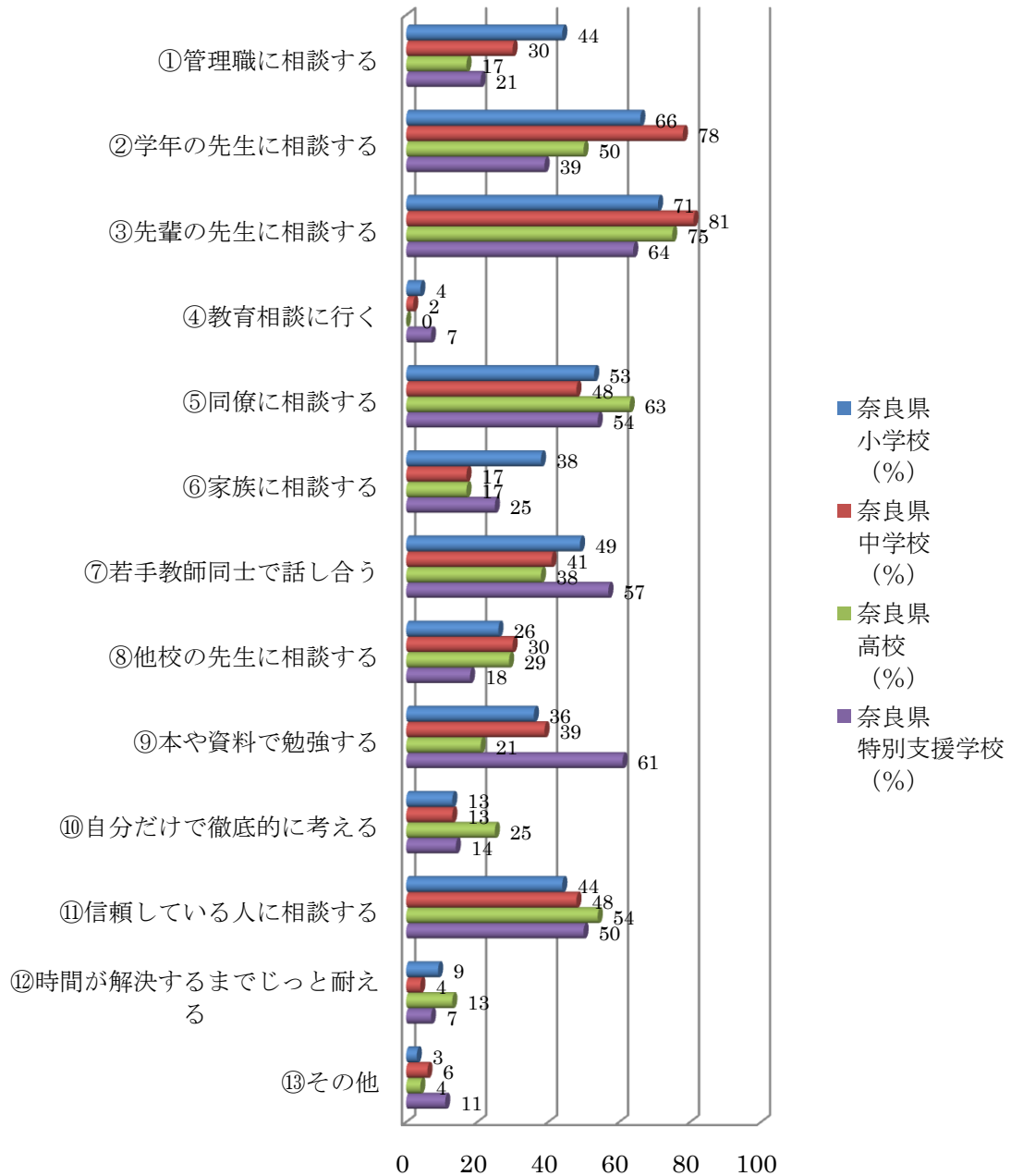
質問 5 校種別



〈考 察〉

校種別では全校種とも「③先輩の先生に相談する」(小 74%、中 80%、高 67%、特 67%)が最も多かった。2位は小学校と中学校では「②学年の先生に相談する」(小 72%、中 75%)、高校と特別支援学校では「⑤同僚に相談する」(高 54%、特 55%)であった。

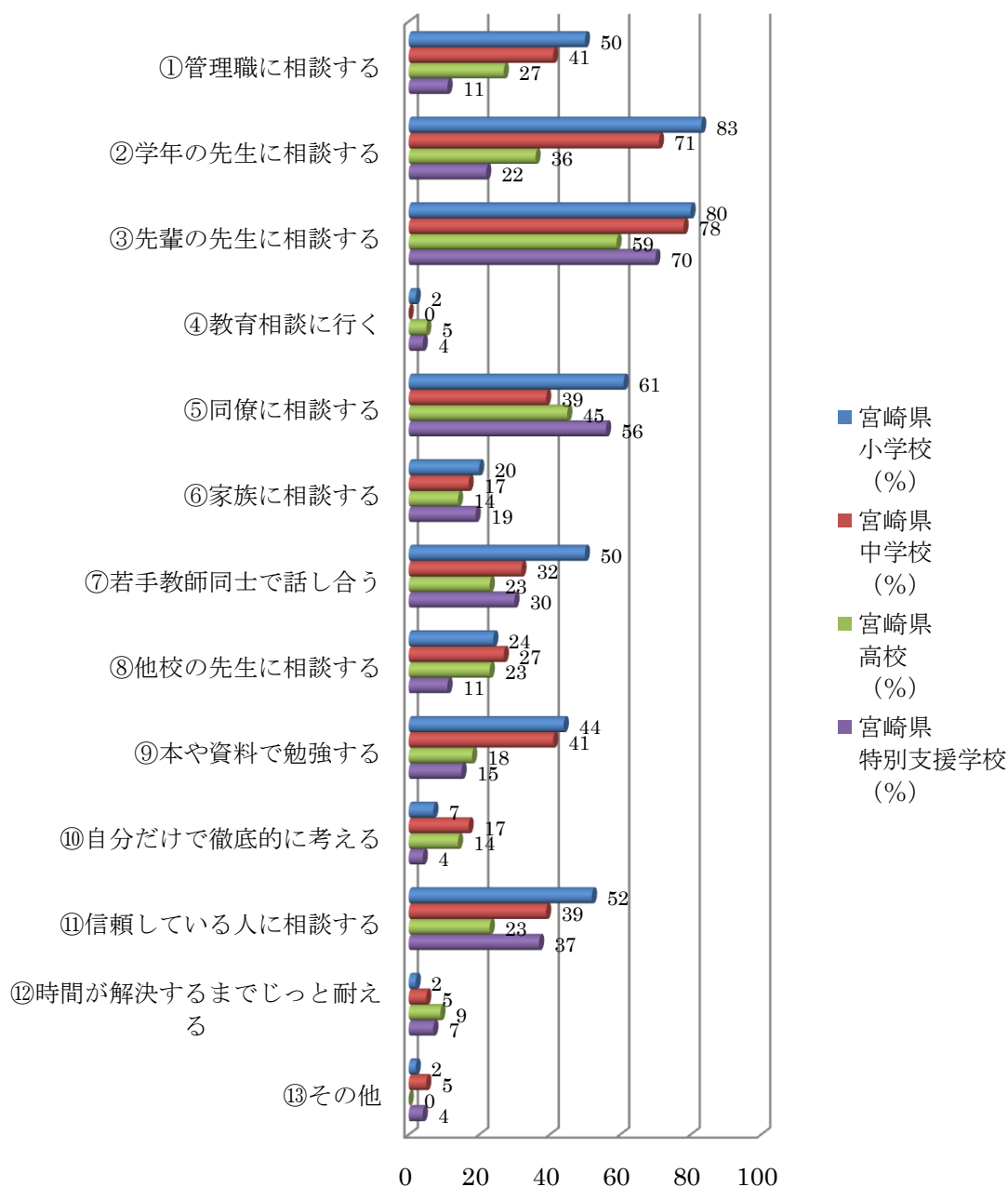
質問 5 奈良県の校種別



〈考 察〉

奈良県では全校種1位が「③先輩の先生に相談する」(小71%、中81%、高75%、特64%)である。2位は小学校と中学校が「②学年の先生に相談する」(小66%、中78%)、高校は「⑤同僚に相談する」(高63%)、特別支援学校は「⑨本や資料で勉強する」(特61%)という回答であった。

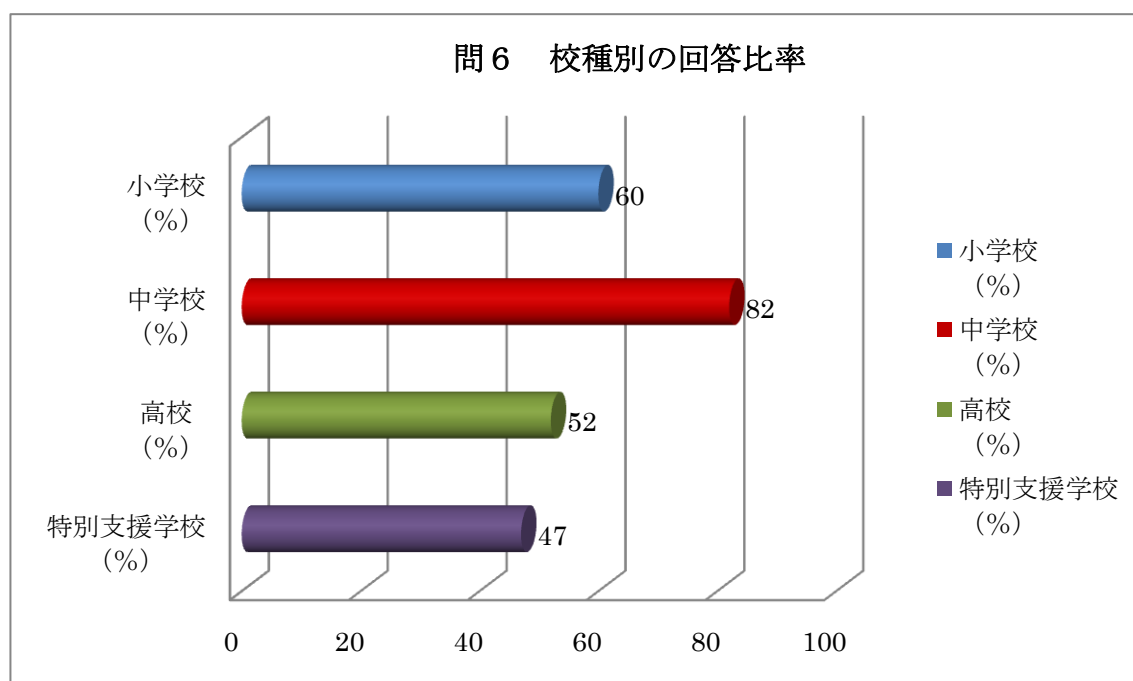
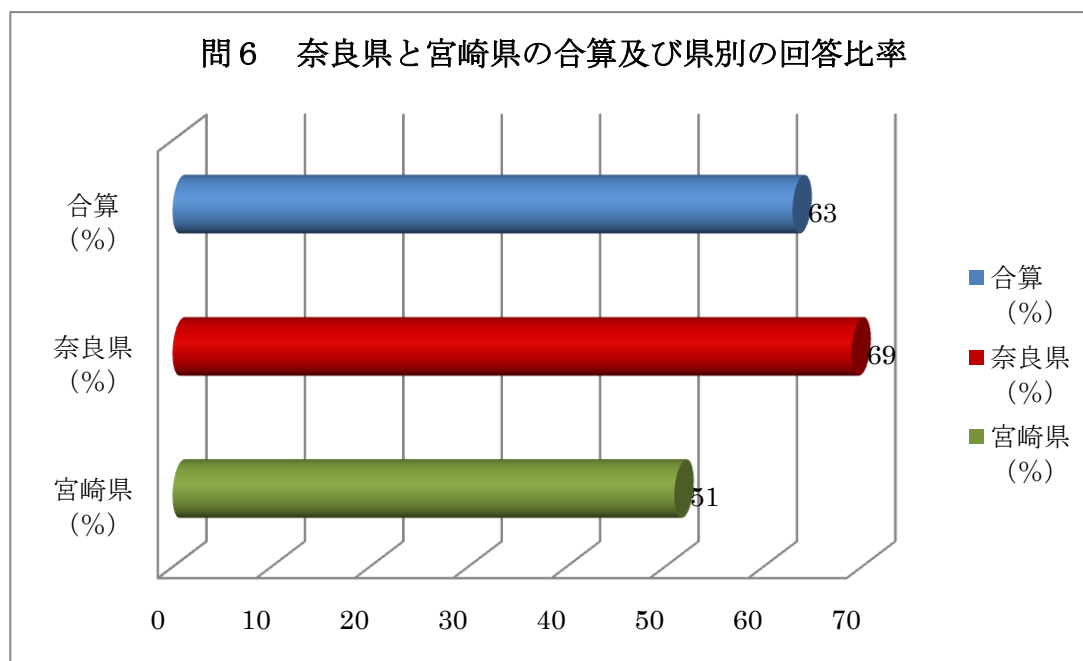
質問 5 宮崎県の校種別



〈考 察〉

宮崎県の場合、中学校、高校、特別支援学校の1位が「③先輩の先生に相談する」(中 78%、高 59%、特 70%)であった。小学校の1位は「②学年の先生に相談する」(小 83%)である。これは中学校では2位(71%)であった。小学校の2位は「③先輩の先生に相談する」(小 80%)であり、高校と特別支援学校の2位は「⑤同僚に相談する」(高 45%、特 56%)であった。

質問 6：あなたが今悩んでいる事柄について、支障のない範囲で具体的に書いて下さい。
なお、人名や学校名、その他の固有名詞等は仮名で結構です。



〈考 察〉

奈良県と宮崎県を合算した回答比率は 63%であった。350 人中 63%の初任者が悩みを持ち、その内容を記述したことになる。

県別をみると奈良県は 206 人中 69%の初任者が回答し、宮崎県は 144 人中 51%の初任者が回答した。数字だけをみれば、奈良県のほうが悩みを持っている初任者が多いことになる。

次に校種別でみると、最も回答が多かったのが中学校であり、奈良県と宮崎県を合わせて 95 人中 82%の初任者が回答していた。続く小学校が 154 人中 60%、高校が 46 人中 52%、特別支援学校が 55 人中 47%の回答率であった。

記述の内容として多かったのは、教員間の人間関係の問題である。職員室内での人間関係、教員間の指導方針の違いや意識の違い、教員間の連携がとれていない、組織としての共通理解ができていない、管理職や指導教官に対する不信感、組合のことで悩んでいる等の回答があった。

また、時間的な問題として、無駄な仕事の多さ、勤務時間内に仕事が終わらない、時間を有効に使うことができない、時間がたりず教材研究ができない、という悩みも多かった。

一方、子どもに関する悩みとしては、教員である自分と子どもとの人間関係、子ども同士の間関係、クラスで問題行動をおこす特定の子どもの対応の仕方、学校外で問題を起こす子どもに対する対応の仕方、クラスの中の特別支援を必要とする子への悩み、また、特別支援を必要とする子の周りにいるクラスの子どものたちの態度、いじめに対する対応の仕方等が悩みとして挙げられていた。

指導に関しては、掃除をしない子に対する指導の仕方、挨拶の仕方、叱り方、指導がきちんと通らない等の悩みが回答されている。

さらには不登校児への対応、保護者への対応、保護者が自分のことをどう思っているか不安という悩みもあった。

また、中学校は特に部活動に関する悩みが多かった。一例をあげると、専門外の部活の顧問にさせられる、保護者の方が詳しくて自分を信用してもらえない。逆に、専門の部活を担当できない。部活動の指導にもっと時間をかけたいが、他のことに時間がとられてしまう。部活動の指導者がもう一人欲しい。部活動の部員あつめ。部活動に費やす時間が多く、教材研究ができない等の悩みが回答されていた。

その他、学校というものに対して自分が抱いていた理想と現実のギャップ。子どもの気持ちを考えて言いながら、次々と子どもに要求し、成果を求める学校というものの体制に対する疑問。中学校や高校では進路指導に対する不安。入試のための授業になり自分の理想とする授業ができない悩み等が回答されていた。

また、研修に対しては、研修の在り方や方針が校内の先生によって違い対応が難しい。初任者研修の出張が周りの教員に周知されておらず、子どもに迷惑がかかる、校内の体制が整っていない等の悩みが回答されていた。

なお、現在、悩んでいることはない。充実している。今後も諸先輩方の力を借りて頑張りたい。プロの仕事である以上、悩みや苦しさは当然のことで、それを含めてやりがいのある仕事だと思う、という回答があったことを補足しておく。